



▲「一年の行事」特集コーナーで新しい年の始まりを感じてみませんか

日本には、季節ごとにさまざまな行事や記念日があります。ひとつひとつに意味があり、人々の願いや感謝、生活の知恵があります。行事の由来や風習を知ることで、より行事を楽しみながら、子どもたちに伝えていけるのではないか。

0歳児からのおはなし会について

図書室では、毎月第2木曜日に「0歳児からのおはなし会」を行っています。絵本の読み聞かせや、手袋人形、手遊びうたなど楽しい内容です。子育て中の保護者の皆さん、おじいちゃん、おばあちゃんも子どもたちとお気軽にご参加ください。

● 日時
1月8日（木）午前10時30分～

● 会場

おはなしのへや（町生涯学習センター図書室内）

「一年の行事」特集コーナー



町生涯学習センター・図書室

☎ 096-234-2447 (内線331)

■開館時間 午前9時～午後5時

■休館日 毎週火曜
年末年始

■貸出冊数 1人5冊まで

■貸出期間 15日間



新着図書紹介

小説



梧桐に眠る

澤田 瞳子 著／潮出版社

8世紀の奈良、遣唐使に伴われて唐の長安からやってきた袁晋卿。孤独な生活を余儀なくされていた彼は、浮浪児たちと出会い、心を通わせていく…。欲望渦巻く平城京、争いの渦中で、もがき生きる彼らの姿を丁寧に描いた1冊です。



さよならジャバウォック

伊坂 幸太郎 著／双葉社

結婚直後の妊娠と夫の転勤。その頃から夫は別人のように冷たくなった。そして今、自宅マンションの浴室で夫が倒れている。私が殺したのだ…。伊坂幸太郎デビュー25周年記念の長編ミステリー。終盤のサプライズが最高の1冊です。



宇宙の片すみで眠る方法

畠野 智美 著／ポプラ社

婚約者・直樹を亡くした依里。直樹は年上女性と東北の温泉宿に泊まり、その帰りにバス事故に遭ったのだ。以来眠れなくなった依里は、デパートの寝具売り場で働くことに…。心の痛みにそっと寄り添ってくれるような読後感です。

一般書



羽柴秀長 秀吉の天下を支えた弟

柴 裕之 著／KADOKAWA

兄・秀吉の名補佐役として、豊臣政権を支え続けた羽柴（豊臣）秀長。最新研究と豊富な史料をもとに、信長・秀吉時代のもう一人の立役者の、知られざる実像を描き出す。今年の大河ドラマ「豊臣兄弟！」時代考証者の最新刊です。



フローラ黒田園芸の草花図鑑

黒田 健太郎・黒田 和義 著／家の光協会

人気園芸店「フローラ黒田園芸」がおすすめする草花を、育て方のポイントや栽培カレンダーとともに231種収録した植物図鑑。定番品種から最近人気の新品種を美しい写真で掲載。庭づくりや寄せ植えでの使い方も紹介しています。



華氏マイナス三十度

キャシディ・ランドール著 森田 由香訳／国書刊行会

彼女たちは性差別や女性嫌悪には怯まず、社会や登山界が作った壁を押し除け、自分たちの肉体の限界を超えて挑戦し続けた…。1970年、世界で初めて、女性だけの登山隊が北米最高峰マッキンリーに挑んだ崇高な冒険の物語です。

文化財探訪

～第131回～
糸田の大綱引き

町文化財保護委員 北里 義友（津志田区）

糸田区の『大綱引き』は、「350年の伝統がある」と、言われています。本来は、2月で旧暦の1月15日の満月の夜に「十五夜の綱引き」として行われていましたが、近年は直近の日曜日の午後に行われています。

由来は2つあるようで、1つ目は「緑川の洪水による堤防決壊を防ぐために大綱を準備していた」、2つ目は「旧糸田村の上・下の2組に分かれて綱引きを行い豊作祈願を行った…」と言われています。

大綱作りは消防団が中心となり全家庭が参加し、住民の連帯、そして老若男女の交流の場ともなっています。大綱には引綱が編み込まれます。引綱は3本の小綱を一束にして、5㍍ほどの長さに三つ編みにしたものを作ります。大綱は小綱20本を一束にして3束を三つ編みで編んでいき、途中に引綱を編み込んでいきます。出来上がった綱は、外周45㍍、長さ50㍍の大綱になります。いよいよ綱引きになると、区民が居住地の上・下二組に分かれ、3回引き合って勝敗を決

めます。綱引き後は、とぐろ巻きに積み上げ、お神酒をあげ参加者全員で担ぎ、氏神様である植木阿蘇神社へ向かいます。神社へ着いたら、「マイタマイタ」の掛け声をかけながら社殿の周りを3周し、神殿の床下に奉納・保管され、緑川の洪水に備えます（現在では実際に使われることはありません）。奉納された大綱は、2年分を保管し、古い大綱はお焚き上げされ新旧交代にて保管されます。

本町に残る数少ない伝統行事『糸田の大綱引き』。未永く続けて欲しいと思います。行事の様子を収めたDVDの鑑賞を希望される方は、町社会教育課までご連絡ください。



糸田区の伝統行事「大綱引き」

お問い合わせ先 町社会教育課 ☎ 096-234-2447（内線327）

人権（心豊かに暮らすために）

自ら気付き、考え、行動することの大切さを学ぶ

令和7年度「甲佐町学校人権教育部会授業研究会」を開催

11月5日（水）に甲佐中1年生と甲

佐小3年生、11月18日（火）に乙女小

6年生のそれぞれの教室で「甲佐町学校人権教育部会授業研究会」が開催されました。

同部会では、人権教育に係る授業研究会を通して、教職員の基本的認識を深めるとともに、各学校間の連携を深め、町内における人権教育の充実と発展に資するために本研究会を実施しています。また、子どもたちが部落差別（同和問題）を正しく理解し、お互いを認め合う心を育てる学習を進めています。

乙女小では、「ひとりの友だち」を教材にして授業を実施。「げんこつ太鼓」で活動する直樹さんが小学3年の時、同級生の伸二さんの部落差別発言にショックを受けながらも、解放子ども会のなかまと共に話し合いを続けていきます。その結果、伸二さんからの発言の背景を引き出すことができ、



△「ひとりの友だち」を教材に人権について学ぶ乙女小6年生の児童たち

町社会教育課 ☎ 096-234-2447

伸二さんのために共に行動するという教材です。この授業で子どもたちは、間違った行動に気付くこと、気付いたらなかもと一緒に動くことの大切さを学びました。
参加された先生から「子どもたちが積極的に発言できてきていて素晴らしい」とあります。なぜ、直樹たちが粘り強く話をしているのか、多様な面から考えたいと思います。一人一人が自分を見つめていた姿がありました」などの感想がありました。

お問い合わせ先